



理髪店の前でくるくる回っているのは何なの

理髪店のしるし

理髪店の前でくるくる回っている、白地に赤・青のらせん状の看板は、「有平棒」といいます。この名前は、南蛮風の「ねじりあめ」である、有平糖に似ていることからついたものです。日本では、1880年ごろ（明治時代の初めのころ）、この看板が使われるようになりました。

この三色の棒を世界で初めて使ったのは、もっと古い時代です。1540年ごろ、フランスの首都パリで、理髪外科医のメヤーナキールという人が、赤、白、青の三色のひねり縞をつけた棒を使ったのが、初めてといわれています。それが世界に広まったのです。

赤は動脈、青は静脈、白は包帯を表す

中世のヨーロッパでは、理髪師は、たいてい、外科医をかねていたのです。そこで、人間の体に関係のある色が、理髪店の看板にとり入れられ、赤は動脈、青は静脈、白は包帯を表すようになったのです。

現在、日本では、理容師になるためには、国家試験に合格しなければなりません。試験に合格したら免許があたえられ、その仕事につくことができるのです。（監修・田代 脩）

